



# 火の見櫓

(題字は 柴谷八尾市長)

発行所  
八尾市消防団  
発行責任者  
八尾市消防団長  
松村芳治  
八尾市高美町5-7  
TEL(0729)92-0119  
FAX(0729)92-7722



## 21世紀の

### 幕開けと共に

#### 新世紀元年の出初式

高安分団 小西

平成13年1月7日(日)、21世紀の幕開けと共に、八尾中学校において、消防職・団員総勢411名、車両35台が参加して、消防出初式が開催されました。

当日は、あいにくの曇り空でしたが、日曜日ということもあって例年より見物の方も多かったように思います。

また、式典においては、消防音楽隊を先頭に徒歩部隊、自動車部隊、そして幼年消防クラブの園児達の華やかな行進や、永年地域防災に貢献された団員に対して市長表彰、団長表彰などが行われました。式典終了後、消防署・消防団による一斉放水が行われ出初式を終わりました。

最後になりましたが、寒い中ご観覧頂きました来賓の皆様や市民の皆様ありがとうございました。また、職員・団員の皆様ご苦労さまでした。

21世紀を迎えて

八尾市消防団長

松村芳治



消防団員各位におかれましては、昼夜を分かたず消火、警戒、地域活動に精魂を傾けていただき、深く敬意を表すとともに、内助の功を尽くされております。ご家族の皆様に対しまして、感謝を申し上げます。

さて、本市消防団は、「私たちの地域は自分たちで守る」という深い郷土愛護の奉仕精神のもと、かけがえのない市民の生命身体及び財産を数々の災害から守るため、日夜献身的に活躍を続けております。

また、合理的な組織づくりと活動能力向上を図るため、施設装備の近代化、処遇改善等、時代の変化に応じた消防団であるための活性化についても推し進めておる次第であります。

今日、複雑多様化する消防活動の中心は常備消防にあるとはいえ、多数の動員を必要とする

大規模災害時における災害防

ぎよ、避難誘導、水防活動等消防団員の動員力、機動力は不可欠のものであり、また、地域に密着した予防活動、応急手当の普及、地域行事への参加など消防団の活動は広範なものになってきております。今後とも地域のコミュニティ、地域住民との接触を通じて、地域防災リーダーとして、また、常備消防等行政機関とのパイプ役を努めていただき、団員一人ひとりが、さらに地域住民の期待に応じられるよう、防災に関する豊富な知識と技術を修得し、それらを生かしながら地域に根ざした多様な消防団活動を展開していかなくてはならないと考えます。

また、起こりうる地震等自然災害に対応できる、機動力のある消防団組織とするため、消防団発足以来の組織改革を行い、四方面隊制を導入するなど、団員の士気高揚と活性化に向けてあらゆる努力を傾けて参りたいと考えております。

終わりに、団員皆様のご健康ご多幸を祈念いたしまして、21世紀はじめのご挨拶とします。

ご多幸を祈念いたしまして、21世紀はじめのご挨拶とします。

成績優良な消防団員ら

大阪府消防表彰式

八尾市消防団に知事表彰旗

大阪府と大阪府消防協会は3月25日(日)、府立青少年会館(大阪市中央区森ノ宮)で平成12年度消防表彰式を行い、本市消防団は、大阪府知事より表彰旗を授与されました。

また、長官表彰を含め多くの団員が栄えある表彰を授章されました。表彰された方々は次の通りです、おめでとございます。

知事表彰

◎表彰旗

八尾市消防団

◎消防団功労章

山本分団 副分団長 稲葉英治

志紀分団 副分団長 松岡義一

西郡分団 副分団長 木下清一

曙川分団 副分団長 杉田茂信

高安分団 副分団長 西野仁

消防庁長官表彰伝達

◎永年勤続功労章

志紀分団 副分団長 西村正彦

日本消防協会会長表彰伝達

◎功績章

団本部 団長 松村芳治

◎勤続章

大正分団 副分団長 高内陸夫

大阪府消防協会会長表彰

◎永年勤続章

志紀分団 副分団長 野中孝

山本分団 副分団長 稲葉英治

〃 部長 梶本成俊

〃 班長 山本隆夫

〃 班長 田嶋幸治郎

〃 班長 岩崎輝昭

高安分団 班長 小川政昭

◎勤続章

南高安分団 分団長 畑中裕昭

〃 副分団長 坂上勝彦

八尾分団 団員 辻元淳二

〃 団員 中村栄次

◎勤功章

南高安分団 副分団長 中川広幸

大正分団 部長 池田公信

志紀分団 班長 吹田哲男

〃 団員 小西繁夫

山本分団 団員 石井正一

〃 団員 辻井義治

◎精勤章

久宝寺分団 分団長 木田孝久

南高安分団 部長 南浦重幸

山本分団 部長 本多一裕

西郡分団 団員 原田昌行

八尾分団 団員 岩井孝男

志紀分団 団員 本田孝稔

〃 団員 角倉弘一

〃 団員 大島規生

分団特集

# 南高安分団

## 世代交代

広報部員 畑中信浩

南高安分団は、現在、畑中分団長を中心とし、平均年齢は39.8才となっております。過去4年で、増員1名を含む18名が新たに入団し総勢45名となりました。

しかし、多くの新団員が入る事は、先輩団員とのコミュニケーションの欠如や、火災発生時や災害発生時の対応の遅れ等色々な問題が起こるのではないかと大変心配されましたが、分団員全員で南高安地区において考えられる様々な火災に対しての消火活動の訓練を行ったり、台風や大雨等の災害発生時の対処の方法を先輩団員から新団員に一つひとつ教える事により、コミュニケーションが活性化し、また、先輩団員においても忘れかけていた小さな事が思い出されたりと、当初心配されていた問題が起こるどころか全員



が一致団結し、消防団活動が大変活発になり、世代交代の大切さをあらためて考えさせられました。一方、このようにうまく世代交代を進めるためには、やはり先輩方の長年の経験と、それを受け継ぐ新団員の心構えが一番大切であることも分かりました。南高安分団では、これからも10〜15年周期で全員が世代交代を行い、消防団員45名だけでなく消防団活動を経験した多くの先輩たちと共に、南高安地区を火災や災害から守って行きたいと思えます。

# 新車両配備

広報部員 寺川義浩

11月30日、南高安分団に、人員搬送車両が配備され、12月2日、岩戸神社にて入魂式を行いました。この車両は、火災出場や火災予防広報のほか、台風、豪雨などの大きな災害時にも多くの団員や装備を迅速に運ぶことができます。

この人員搬送車配備に伴い、今後も、北部・中部・南部の各分隊間の更なる連携を図り、訓練に努めて、南高安地区の安全を、より万全にしていきたいと考えています。

今年の出初式は、この新車配備と重なり、5台の車両一杯に分乗し、屯所を出発しました。途中、地元町内を走りながら、消防団に課せられた任務と責任を感じ、身の引き締まる思いでした。





# 1年 めーひょん

## 大 正

### 河内音頭

皆様は、火の見櫓に上がった経験があっても、盆踊りの櫓に登った方は少ないと思います。その櫓の上で太鼓をたたいてくれないかと頼まれ、引き受けたのが事のはじまり。

羽曳野の南宮町で、練習をして仕上がったのが8月に入ってから

で、本番が8月26日、南宮町で9時前に歌い出し、約20分間音頭を、取らしてもらいました。出来映えは、並の上で今回は3人で櫓に上がるのが最大の目的であって、音頭の中身は次回からとして、これからも毎年櫓に上がりたいものです。

それではまくらを少々 エーエン 河内は八尾市の消防団活きのいいのが売りもんや ヨーホーホイホイ ハーエン ヤコラセードッコイセー！

それでは皆様さよおなら

## 志 紀

### スポーツ祭で アピール

昨年10月9日、志紀地区の市民スポーツ祭に、志紀分団から場内整理役として参加しました。もちろん、スポーツ祭ですから競技にも参加し、リレー競技では各分隊から1名づつ選出して“消防団チーム”を結成、日常の訓練の成果をこの場でアピール出来ました？またスポーツ祭の最後には、地元の人たち

ソーラーヨーイトコサツサーノ  
ヨーイヤーサツサー  
(太田分隊 池田)



が見守るなか消防団の放水訓練を実戦さながらに行いました。地元の人々はまぢかで見ると水訓練の迫力に感動されており、日々の訓練の成果を見ていただける良い機会になりました。こういった地元地域、住民と消防団の協力、そして交流が、万一の災害時に連携できる体制の基盤作りになると感じました。

(老原分隊 近江)

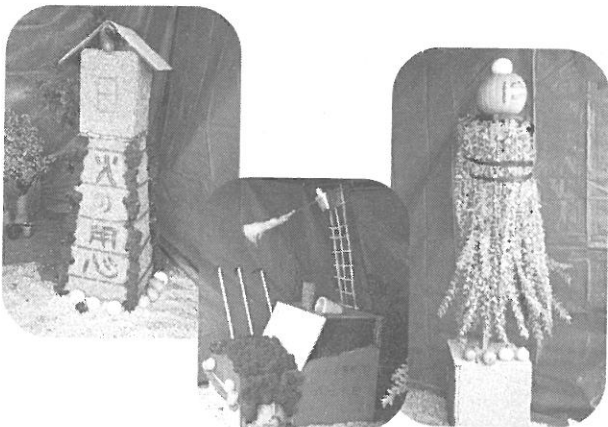


## 曙 川

### 八尾木の作り物

江戸中期より八尾木不動尊の縁日の日には、その年に農家の田畑で収穫した穀物や野菜で人形や動物等を等身大に作り各家々の庭や軒下に展示して、参拝者に見物してもらい、その年の豊作を喜び又次年の豊作を願う恒例行事で今回は我が曙川分団の西尾分団長がつくられた作品(消防車・火の見櫓・まとい)を紹介いたします。

(松田)



(使用材料：ピーマン・シシトウ・キビ・かぼちゃ等々)

# 2分お

## 西郡

### 初めての 合同訓練

平成12年11月9日(木)八尾市幸町6丁目 吉兆苑老人福祉施設において、同建物の職員と合同で消防総合訓練が行われました。

訓練は、3階食堂付近から火が出たとの想定で、職員による通報、初期消火、避難誘導訓練を実施、その後、消防救助隊による、救出訓練、救急隊による応急処置訓練、梯子車による放水訓練など



が実施されました。

我が西郡分団は、吉兆苑南側の消火栓に水利部署して、連結送水管への送水後、梯子車から救出された人が人を応急救護所まで搬送する任務に当たりました。

## 山本

### 家族と共に

去る8月5〜6日、福万寺分隊は、山陰の皆生温泉に家族と共に訪れました。日頃顔を合わす事の少ない団員の家族同士の交流と陰で応援してもらっている感謝の気持ちも込めた1泊2日のバス旅行でした。バスの中では、ビンゴゲームやカラオケなどで、最初から盛り上がり、その後一行は、足立美術館 海水浴にと楽しい夏のひと時を過ごしました。

ました。

夜の宴会では、子供も大人も一つになって、河内音頭も飛び出す程の盛り上がりで、みんなの楽しい思い出となりました。

家族の協力なくては、消防団活動はなりたちません。またこの様な旅行ができることを、願っています。

(福万寺分隊 向井大)



前日からなぜか落ち着かず緊張していた私達でしたが、先輩団員の気合の入った号令と、指導により無事に訓練を終えることが出来ました。

今後、このような福祉施設などが増え消防団の活動もますます難しくなってくるなと思うとともに本番さながらの緊迫した訓練を通じ、みんなが力を合わせれば地域を守るんだ、また、その意識を高めていくのが私達消防団員の役目なんだということを強く感じた訓練でした。

(原田・緒方)

## 八尾

### 秋祭り

毎年10月の第2土曜、日曜日に、奉賛会神社を守る会が中心となり、子供会、婦人会、町会の協力で、地元、加津良神社で秋祭りが行われます。手作りの祭りをするため朝早くから全員が一丸となり、餅つきをしたり、綿菓子や金魚すくいなど色々な、店の準備を進め頑張っている。

昼ごろになると、子供達が集まりだんじりや、布団太鼓を引き出すと、我々、八尾分団の出番である。団員が交通整理を受け持っているからだ。無事、祭りが終わると、少しは地域の役にたつたかなと思えました。

(若野)



### 海外消防事情調査

## 欧州各国の消防を訪ねて

副団長 川田政宣

昨年秋、日本消防協会主催の海外消防事情調査に、全国各府県の消防団長等と共に、欧州各国の消防視察に参加させて頂きました。

調査先は、オランダのアムステルフェーン消防署、デンマークの大コペンハーゲン救援部隊、スウェーデンのグネエスタ消防署、ゴーシゲ消防署です。

なかでもスウェーデンのグネエスタ消防署では、日本人としては初めての視察ということもあり、特に大歓迎を受けました。そして驚いたことに、この消防署には、常勤の職員は署長以下2名だけ、あとはパートとボランティア消防隊員により運営されており、救急業務については、消防の業務から外れ、現在は保健所の業務となっているとのことでした。

各国共、日本の消防団に相当する、ボランティア消防隊があり、「自分の地域は自分で守る」という郷土愛に基づいて活躍されており、常備消防と変わらぬ厳しい教

育訓練を積極的に受け、日々自主訓練に励んでおられ、消防活動に対し非常に誇りを持っておられたこと、又、装備や公務災害補償は充実しているが、報酬は無くあくまでもボランティアという点に深く感銘を受けたところであり、見習うべき事柄であると思ったところであります。



グネエスタ消防署タンク車前



ゴーシゲ消防署のボランティア隊員と

## 消防車が通れない どないかしてよ!

嶋林 しのぶ

このごろ違法駐車をする車が多くなってきました。その中にはナンバープレートが無い車も少なくありません。この様な違法駐車が増えると火事があつた時に消防車が通れない場合があります。

火事の火はどんなに小さくても消防車が1分1秒でも遅れてしまつたと、どんな火は大きくなつてしまいます。

前にも私の家の近くに止めてあつた車が燃えたことがあります。私達家族はいつものように寝ていました。すると外からサイレンの音が聞こえてきて、次に電話がかかってきました。この電話は分団からの招集でした。

お父さんが着替えて家から飛び出して行くと、何かが爆発したような音が家の中に響きました。始めは車が燃えているとは全然知らなくて、どこかの工場が何かを燃やして火事になつたんやろうと思つていました。

次の日、おばあちゃんの家で用事で出かけた時、火事のあつた場所に寄ってみました。前の日に、

お父さんから車が火事になつた事を聞いていたのでどうなつていいのか見てみようと思つたのです。

車は真っ黒で、初めの色は何色だったのかもわからなくなり、フロントガラスも無くなつていました。その時私が一番に思つた事は、「もしこの車に誰かが乗つていたら…」と考えただけでも恐ろしくてたまりませんでした。

この火事は、消防車がある場所に来れたから良かったけれど、違法駐車で消防車が来れなかつたらもつとひどい火事になつていたかもしれません。だから私は、違法駐車が無くなればいいなと思つても、でも、違法駐車がなくなつても火事は無くなりません。今度は家が火事になるかもわかりません。だからこの家でも、火の元に注意してくれればいいなと思つています。



(西郡分団 嶋林団員と娘のしのぶさん)



# あなたの身体は、健康ですか？

昨年(2000)年11月18日(土)、消防本部において、健康診断が行われ、114名の受診がありました。医師による検診では、団員一人一人が日頃の健康状態に対して、熱心に質問する姿が多く見受けられました。

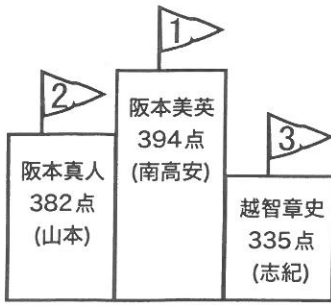
普段から規則正しい生活習慣を身につけ、バランスのとれた食事を心掛けたいものです。

(久宝寺分団 横山)

## 20世紀最後のボーリング大会

昨年11月10日(金)、恒例の団員ボーリング大会が八尾ポールアリーナ(天王寺屋)で、松村団長以下169名が参加して行われました。

栄えある上位入賞者は、次のとおりです。  
(龍華分団 泉)



ハイゲーム 阪本美英(南高安)225点  
団 長 賞 馬谷隆喜(南高安)

### 《健康診断 結果》

- 受診者 250人中 114名(45.6%)
- 114人受診者の内訳
  - A-10人 異常なし
  - B-3人 軽い異常はあるが病的とはいえない
  - C-47人 軽度の異常
  - D-26人 再検、精検を要する
  - E-0人 治療を要する
  - F-28人 現在治療中
- 所見別
  - 1 血中脂質、高脂血症 63人
  - 2 肝機能 54人
  - 3 心電図 28人
  - 4 聴 力 26人

### ●文化財をたいせつに●

平成13年1月26日(金)、八尾市千塚の歴史民俗資料館において、消防職・団員、資料館職員が参加し、文化財訓練が行われました。文化財の搬出、初期消火、放水等が迅速に行われ訓練を終えました。

(高安分団 小西)



## スーパーが火事!



Q 棒状注水と噴霧注水の実用的な使い方を教えてください。

教えてくんなはれ

A 火災現場での放水は、大きく分けて棒状注水と噴霧注水に分けられます。

棒状注水は射程が長いため、火勢が強く接近できない場合や延焼阻止また、破壊力が強いので、窓ガラス、屋根瓦などの破壊や除去に有効です。その分反動力が強いため、しっかりと足場の確保や徐々に筒先コックを開くなど放水反動に注意が必要で、噴霧注水は、燃焼規模の小さい火災や表面のみの燃焼火災などで水損を考慮する必要が、その他に少量の油火災や電気火災にも有効で、広い面積に注水が可能です。いずれも注水に当たっては、燃焼実体を確認し、必要最小限にとどめることが重要です。



平成13年3月6日(火)、ライフ志紀西店(志紀町1丁目)で、消防署・消防団合同の、消防訓練が行われました。この訓練は、春の火災予防運動行事の一環として実施されたものです。訓練は、梯子車を用いた救出訓練や排煙訓練・放水訓練など多彩に展開され、訓練に参加した志紀分団の団員は、けが人の担架搬送と屋上からの放水訓練に真剣な面持ちで挑んでいました。

(志紀分団 丸田)

# 平成12年中火災・救急概況

火災	1日に約46万円が灰
救急	1日に約30件出場

## 火災



平成12年中の火災件数は110件で前年と比べて、24件増加、損害額は、1億6764万4千円、死者は4人、負傷者は15人でした。

これは、約3.3日に1件の割合で火災が発生し、1日あたり約45万8千円の貴重な財産が灰になったこととなります。

## 救急

平成12年中の救急件数は、1万1121件で、前年と比べて213件増加し、年々増加の傾向にあります。

これは、1日平均30件の割合で救急車が出場したことになります。市民26人に1人が救急車を利用したことになります。

<b>火災</b>	110件
死者	4人
負傷者	15人
損害額	1億6,764万4千円
火災原因(ワースト3)	
◇ 放火・放火の疑い	38件
◇ たばこ	13件
◇ 電灯・電話等の配線	9件

<b>救急</b>	11,121件
主な事故種別	
◇ 急病	6,712件
◇ 交通事故	1,701件
◇ 一般負傷	1,328件
搬送人員	10,589人

## 消防団災害出場状況

分団	種別	火災		火災以外の災害	
		件数	延人員	件数	延人員
久宝寺	本部	8	8	10	10
西郡	久宝寺	12	106	10	62
八尾	郡	6	50	5	32
龍華	八尾	10	95	2	11
大正	龍華	9	46	1	5
南高	大正	13	148	8	91
高山	南高	9	101	7	73
山志	高山	4	126	7	175
計	山志	5	58	13	165
	計	9	316	13	314
	計	7	186	6	128
	計	92	1240	82	1066

※広報・訓練・特別警戒等は含まず。

3月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月
大阪府消防表彰式 春の火災予防運動 文化財訓練 防災ボランティア訓練 消防出初式 歳末特別警戒 消防団厚生事業 防火フェスティバル 消防団員健康診断 秋の火災予防運動 広報紙発行 大阪府消防大会 市防災訓練 河内音頭まつり警備 地区支部総合訓練 大阪の消防大賞 機関員講習 幹部視察研修 恩智川水防訓練 団初任科・幹部教養	消防団年間行事予定							

## 広報部会名簿

委員長	南高安分団	森田 生
副委員長	曙川分団	岩田 悦
委員	久宝寺分団	植野 久
	西郡分団	横山 典
	八尾分団	緒方 靖
	龍華分団	原田 昌
	大正分団	橋本 繁
	南高安分団	若野 弘
	曙川分団	川北 幸
	山志分団	嶋野 雅
	南高安分団	山崎 義
	山志分団	寺川 修
	山志分団	森山 浩
	山志分団	畑中 敏
	山志分団	市田 有
	山志分団	近藤 出
	山志分団	藤本 純
	山志分団	小西 光
	山志分団	中谷 賀
	山志分団	向井 大
	山志分団	丸井 敏
	山志分団	近藤 行

**編集後記**

広報誌『火の見櫓』も今回で、第7号になり、そろそろネタも無くなつて来るころですが何とか出来上がりました。これからも、新鮮な記事や写真をお待ちしています。

(松田)